

雪の日の思い出

私が通っているコーラスグループ「ララルー」で、「雪の降る町を」を歌っている時、江口先生より「“足音だけが追いかけて行く”というのはどういう事なんでしょう？」と尋ねられました。山形の雪国育ちの私は「長靴をはいて雪道を歩くとキュッキュッと雪を踏む音がするんです」と答えました。

今の山形市内は雪が少なくなった様ですが、私が小学生の頃は冬の間中曇天で、太陽の光が閉ざされた様な天候でした。小学校には毎日長靴で通い、あの頃は「貼るカイロ」などないので、毎日母が事前に炬燵で温めてくれた新聞紙をまるめて長靴に入れてくれ、少しでも足が冷たくない様にと準備してくれていました。学校に到着すると、広いグラウンドは雪一面で、用務員さんがいつも学校の玄関まで雪かきをして長い道を作ってくれていました。今思うと、大変な労作業だったんだろうと思われます。

我が家では、屋根から雪下ろしをした後は家の周りに大量の雪が積まれます。すると父が、雪のすべり台を作ってくれ、私は「すべり下駄」をはいて何度もすべり降りるのです。それが楽しくて、友達と雪の降る中でも遊んでいました。その両親も数年前に二人共、無事、見送ることができ、改めて「親の恩」を感じる今日、この頃です。

やがて、3月も下旬になると根雪も溶け始め、やっと長靴から開放されて普通の靴をはけるようになります。足元が軽くて嬉しかったのと、春が来たんだと心がはずんだのを覚えております。

これが60年以上も前の私の雪の日の思い出です。

(雪谷石川台・細井 久)

魅力ある上池台へ

ここ『上池台』に移り住んではや二十余年が経ちます。年を重ねるたびに住みやすくお気に入りの街と感じております。

現役時代仕事に夢中の頃は、ただ都心に近くて便利というだけで周りもほぼ見えておりませんでした。引退後ウォーキングするたびに今まで気が付かなかった変化、そして緑、桜、池、公園、坂道、商店街、人々等、改めて住みやすく環境の良い所だと感じる様になりました。今後もずっと住み続けたいと思っております。そしてご縁で民生委員のお仕事のお誘いをいただき、より魅力ある『上池台』へ、微力ながらお手伝いできればと思います。

コロナ禍で以前の様に気軽に会話や挨拶が思うように出来なくなってしまいましたが、それでもここ『上池台』はいつまでもずっと、ほっこりと温かい人達が住まうやさしい街であって欲しいと願うばかりです。

(池の台・入来院 知子)

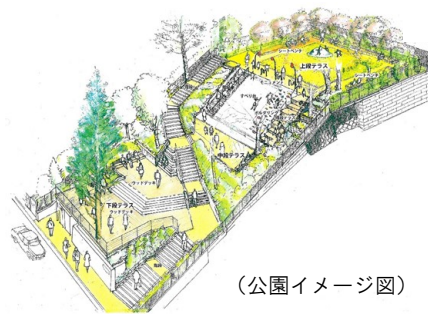


東雪谷二丁目公園 工事のご案内

東雪谷二丁目公園は昭和48年に開園し、その特徴ある地形などで多くの区民の皆様にお馴染みになってきました。まもなく開園から50年を迎え、老朽化のため、令和3年2月8日から9月12日までの予定で全面的な改修工事を行います。

工事により、階段のバリアフリー化し、ウッドデッキやベンチを配置したくつろぎの空間を広げます。また多くの子供たちが遊べるように滑り台を拡張し、ボルダリングを設置します。昔から親しまれてきたサクラやマツは残してほしいとの要望を多く頂き、引き続き公園のシンボルとして地域を見守ってもらいます。一方で防犯上見通しをよくしてほしいとの要望も頂き、樹木を間引いて監視カメラを設置します。園内には複数の品種のサクラを植え、2月から4月までお花見が楽しめるようになります。サクラ以外にも四季折々の花が公園を彩り、明るく安全に地形を楽しむ公園へと生まれ変わります。

工事期間中は、近隣の皆様にご迷惑ご不便をおかけしますが、歩行者の安全確保や騒音振動に十分注意を払いますので、何卒ご理解ご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。



(公園イメージ図)

＊ ＊ 編 集 後 記 ＊ ＊

世の中新型コロナウイルス感染拡大が続き、2度目の緊急事態宣言が発令されたなか、本号の編集も、事務局担当のご苦労により一部リモートワークで行われました。

オリンピック・パラリンピック開催が問われる今、コロナウイルス騒ぎを含め、この「さくら号」がお手元に届くときには、大田区民のワクチン接種も何処まで進んでいるか気になるところです。

本誌の内容も、表紙は小学生や幼稚園児に書いていただいたこともありましたが、本文の大半は成人の方でした。本号では小学4年生に「私のかわいい鳳蝶」の原稿を提供いただき今後の幅広い購読層が期待されます。

最後に私ごとですが、小池自治会編集委員として10年間務めさせていただきましたが、本号をもって後任の小山憲生さんにバトンタッチさせていただきました。この間原稿提供にご無理をお願いした地域の皆さま、ブルーカラー出身で文才の無い私をご指導頂きました編集委員・事務局の皆さまに厚くお礼申し上げます。有難うございました。

(小池・原 龍興)

[編集委員]

笹丸・小久保 衡子／雪谷石川台・倉田 清子／南雪谷・河野 洋一郎／東雪谷東中・秋山 一雄／池の台・柏 三八子／小池・原 龍興／上池上・松山 康夫

ふれあい雪谷(創刊・平成2年12月20日) 年4回発行
(1月・新年号／4月・さくら号／7月・あさがお号／10月・もみじ号／の1日発行)
[発行日] 令和3年 さくら号 4月1日(通巻・第122号) 発行
[発 行] 地域力推進雪谷地区委員会 [編 集] ふれあい雪谷編集委員会
[連絡先] 大田区地域力推進部雪谷特別出張所
〒145-0065大田区東雪谷三丁目6番2号 ☎3729-5117 FAX3729-1826

地 域 情 報 紙

ふれあい 雪 谷

令和3年4月 さくら号 通巻第122号



切り絵 湖畔の春
小池・小山 澄雄さんの作品

お 知 ら せ

小山 澄雄さんの切り絵作品を雪谷特別出張所内の区民ギャラリーにて4月1日(木)から4月30日(金)まで展示します。雪谷特別出張所にお越しの際は、ぜひご覧ください。

「ふれあい雪谷」のホームページはこちらからご覧いただけます。



私のかわいい鳳蝶

みなさんは鳳蝶にも性格があるのを知っていますか。私はそれぞれに性格があることを発見しました。

昨年5月、お庭をさん歩しているとアシタバの葉に幼虫がいました。黒い2ミリほどの鳳蝶の幼虫です。つかむのもこわいくらい細く小さな幼虫でしたが、育ててみたくなりました。お兄ちゃんに相談すると、いいよと言ってくれました。虫かごを準備し葉っぱの上に5ひきのせ、そっとかごに入れました。

それから4日、頭でっかちで黄色の点々がある子とない子がいるのに気づきました。調べると、点々のあるのはキアゲハ、ないのがナミアゲハでした。ナミアゲハはハネも体も大きくなわばりあらいではハネを相手にバチバチ当て、ケンカに勝った女王様のような様子。角からは黄色いくさい汁を出します。私には怒ったりしないおだやかなしかもとても人なつこく、いちばんなれかわいくて大好きでした。キアゲハは、おっとりした子もいれば、けいけい心が強く角からくさい液を出しまくる子もいましたが、気の強さはナミアゲハほどではありません。

そんな幼虫たちは5回脱皮をくり返し、6回目にサナギになり蝶になります。サナギから出るとハネをかわかし、お腹の水をハネや体にいき渡らせ、余った水分はおしっことして出し、体が十分に軽くなったら飛ぶ練習をします。部屋の天井からつるした大きなネットに放蝶するとおしっこをかけられます。ご飯はハチミツを水でうすめティッシュに含ませ、ハネをチョキの指二本ではさみ、つまようじの先で蝶のストローをのばしてあげました。



画・里紗

育ててみると、生まれたてのハネのキラキラして本当にきれいなこと、人になれることも知りました。

蝶は成蝶して3週間前後しか生きられません。3週目を過ぎたころ外の世界を見せてあげたくて、手の平にのせ庭からそっと放しました。でもお年寄りなので大丈夫か心配で近所を飛び回る蝶をおいかけてました。最後に外の世界を見せてあげられたのでよかったです。

また来年の春 会えますように。

(東中・現小学校5年・田原 里紗)
(令和2年10月記)

洗足池ボートハウス休憩所が リニューアルオープンしました

洗足池ボートハウス休憩所は今年1月にリニューアルしました。感染症対策の上お出かけしてみたいはいかがでしょうか。

坂のまち 雪谷を走る

コロナ禍を考え、先日我が家でも車を購入しました。軽自動車ですが、大きな買い物をしたことのない私たちにとっては一大イベントとなりました。

普段目にしない金額のものはいざとなるとランナズハイならぬお買い物ハイのようになるのか、お店の方の説明にも魔法をかけられたかのようにただうんうんと頷き、自分たちも「せっかくだから」、「ずっと使うものだし」などと言い訳し、なんとか契約を済ませた後も納車まで待つ身はなんとやら。嬉しい反面、本当にあの車で良かったかな?などという思いが頭に。しかし予定していたレジャーがことごとくダメになった我が家には、なんととっても車が唯一の楽しみでした。



待ちに待った納車の日、自分たちの車を目にした瞬間はさすがに嬉しかったです。それから約1ヵ月、私たちは愛車とともに蜜な時間を過ごしています。といっても生活に劇的な変化があったわけではありません。たしかに車があることによって利便性は増しました。けれどももっとも大きな変化は気持ちです。車庫入れの時のなんともいえない音、坂道を上がって行くときの頑張る様子、だだっ広い駐車場で見つけたとき、なんだかとても愛らしく思うのです。大げさかもしれませんが、家族が増えたような気持ちです。自分でも意外に思いましたが、物に愛着を持つということは不思議でもなんでもないのかもしれません。

願わくはコロナが終結するまで、愛車とともに元気で過ごせますように。

(東雪・小沢 紘子)

雪谷地区の表彰者

- 東京都明るい選挙推進運動永年功労者表彰
高橋 三郎
- 東京都青少年健全育成成功労者等表彰
月居 利久
- 東京都保護司会連合会会長表彰
荒井 昭二 北川 正訓 中野 雄大
- 東京保護観察所長表彰
伴 歩 船橋 健治
- 大田区防災市民組織等感謝状贈呈
石井 敦 堤 宏明 奥山 徳一 磯崎 文重
- 大田区青少年対策地区委員会永年功労者表彰
大濱 英郎
- 大田区青少年表彰 模範青少年部門
宇井 良 田村 歩 福井 康太 降旗 梨沙 横田 彩葉

(敬称略)

民生委員は何をしているのでしょうか？

雪谷地区には33名の民生・児童委員がいて、主に一人暮らしの高齢者や障がい者をサポートしています。相談があった時に地域包括支援センター(介護や福祉)区役所(行政)に繋ぐのが私たちの仕事です。

昨年からのコロナ禍で訪問する回数が減りましたがお顔を見ながらお話をするようにしています。

「クーラーが動かない」とか、「家の中から変な音が聞こえる」とか、お伺いすると火災報知器からの音でした。消防署に電話で連絡した所、消防車1台と署員3名が見えて音の原因は中の乾電池が切れかかる合図でした。乾電池を新しくして事なきを得ましたが皆さんのお家の火災報知器は大丈夫ですか?困ったことがあったら民生委員までお電話ください。

最近子どもや高齢者の虐待が増えています。近所の方で大きな声で怒鳴ったり、泣き声が聞こえることがあったらまず初めに民生委員まで相談してみてください。相手にわからないように調べてみます。

ゆきがや広場での「おしゃべりサロン」は月一回の集まりで、折り紙や布のプローチを作ったり、映画鑑賞・体操・クリスマス会を開いていましたが今は休止中です。皆さんと一緒に心置きなくお喋りができるよう様に願っています。

(笹丸・中島 みちこ)

’20年とは？

コロナ禍で二回目の春を迎えています。昨年は、私にとって空白の年となりそうなところ、「ふれあい雪谷」の話を頂き、振り返ってみました。

毎年行っているOB会、小学校と大学の同窓会、マラソン大会が延期からやがて中止になった事、自粛で読書とテレビを見る時間が増えた事、我が家では紙や布マスク・消毒液を備蓄し、体温計・体重計・マイ買い物袋を復活させ、ソーシャルディスタンスに気を使うようになった事、当マンションの重要な課題対応のため、感染対策のうえ、理事会を八回も開催した事、国勢調査員として調査に従事したこと等々ありました。それでも時々20年が欠落し19年から21年になってしまう事があります。「ウイルスは全てを分断する」とは良く言ったものです。まだまだ序盤戦、三密空間での会話・飲食をさけ医療従事者の方々に負担をかけないようにと思っています。

話は変わります。コロナ禍での避難所についてです。対策により避難者スペースと通路が広がるため、収容人数が従来の半分以下となる事が想定されます。避難所でなく、自宅で長期にわたり避難生活をする事への備えが益々重要になっています。準備しておくことをお勧めします。

(上池上・竹内 三秀)